

山木議員（自民議連）

令和5年2月15日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）台湾との異文化間協働活動の推進について

高校生のうちに、直接異文化と触れ合うことは、一生を通しての貴重な経験になる。

幅広い国際感覚を身に付け、世界を視野に入れて活躍する高い意欲と志を持った人材の育成を図るためにも、まずは、一番身近な台湾との交流を積極的に進め、大きく減った海外との交流の機会を確保していくべきと思うが、教育長の所見を伺う。

（答）

県教育委員会では、これからの社会で活躍するためのベースとなる、生徒のグローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力の育成に向けて、異文化間協働活動を推進しているところでございます。

令和2年以降、コロナ禍の影響により、海外への渡航や海外からの留学生の受入れが困難となっておりますが、今年度におきましては約7割の県立高等学校が、オンラインなどにより、海外姉妹校との交流に取り組んでおります。

例えば、台湾との交流につきましては、府中東高等学校の生徒が、台湾の姉妹校で実施された「日本史研究」の授業にオンラインで参加し、日本の文化を紹介したり意見交換したりするなど、生徒同士の交流を継続して行っております。

また、海外の学校との対面での交流につきましては、昨年10月以降、海外渡航に係る水際対策が大幅に緩和されたことに伴い、今年度はこれまでに県立高等学校4校が海外姉妹校を訪問しており、今後は、台湾を訪問する御調高等学校をはじめ、4校が姉妹校等を訪問する予定であると聞いております。

このほか、県教育委員会と台湾桃園市との教育交流協定に基づき、コロナ禍で休止しておりました高校生の相互派遣研修につきましても、来年度できるだけ早い時期に再開し、高校生同士が交流する機会を確保したいと考えております。

県教育委員会といたしましては、台湾をはじめとした海外姉妹校と各県立学校との対面での交流の本格的な再開に向けて、各学校の取組を積極的に支

援してまいります。